いわた
文化財だより 第206号
磐田市教育委員会教育部文化財課　令和４年５月２日発行

目　次

■旧見付学校へ行こう！　・・・・・・・・・　P1～2
■源平伝説地を訪ねて　その２　・・・・・・・・・P3
■動画『磐田市の文化財をまもる・いかす』を制作しました P4
■コラム『古墳時代も磐田はモノづくりの町』森本司　P4

文化財課イメージキャラクターともちゃん

静岡県磐田市見付 2452　TEL＆FAX：0538-32-4511
開館時間：９時～16 時 30 分　休館：月・祝日の翌日　入館無料

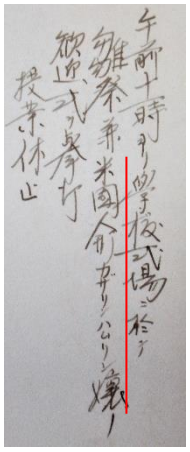
旧見付学校ではこのたび、１階西側展示室にて学制発布 150 周年を記念した展示がスタートしました。また、２階、３階の常設展示に新たな展示が加わりましたのでご紹介します。この機会にぜひ、旧見付学校にお越しください！

企画展　歴史資料から見た　磐田の近代教育　～校務日誌・沿革誌から探る～

明治５年(1872)、明治政府により発布され「学制」が近代日本の小学校教育の原点となりました。そして今年、令和４年は「学制」発布から 150 周年の節目の年に当たります。本企画展では、「磐田の近代初等教育」の進展、人々の教育にかけた思いや、尽力・支援、苦労等について、各学校に残された「校務日誌」「沿革誌」といった資料から探っていきます。

みどころ■校務日誌と写真からみる「青い目の人形」

昭和２年、友情人形（通称「青い目の人形」）が日米関係の改善を目的にアメリカから日本に 12,739 体贈られました。磐田市内には、その内の９体が配布されました。市内の「青い目の人形」の所在は不明ですが、校務日誌や写真からは、アメリカで名付けられた人形の名前や、日本のひな人形と共に飾られ歓迎式をおこなったことなどがわかります。「青い目の人形」に関する写真や校務日誌を展示します。



ひな祭で飾られた青い目の人形「カザリン＝ハムリン嬢（左写真）と昭和３年３月３日の校務日誌（右）（磐田西小学校蔵）

昭和 18 年 5 月 6 日再建
台座銘：二宮尊徳先生幼年之像
（竜洋西小学校）

みどころ■校務日誌と写真からみる「二宮金次郎（尊徳）像」

江戸時代後期の著名な農政家である二宮金次郎は、孝行・勤労・学問など善行の模範の少年像として、明治 37 年（1904）以降発行の「修身」（※）の国定教科書に取り上げられました。やがて二宮金次郎は銅像となり、市内の小学校にも設置されました。各校の沿革誌や校務日誌によると、昭和 7 年から同 11 年までの間に 11 体の建設が確認出来ます。

市内の学校に設置された、二宮金次郎像の歴史をぜひ会場でご覧ください。

（※）旧制の学校教科のひとつで、第二次世界大戦後廃止された。天皇への忠誠心を軸に孝行・勤勉などを教える科目。

常設展　みどころマシマシ！新しい展示が増えました

みどころ■昭和 30 年当時の磐田北小学校（旧木造校舎）の模型

磐田北小学校（旧木造校舎）の模型

磐田北小学校卒業生の渡邊陽三氏が 7 年の歳月をかけ制作した、150 分の 1 スケールの磐田北小学校（旧木造校舎）の模型です。

当時の写真や図面などをもとに、昭和 30 年代の状況を忠実に再現しています。

模型の中には二宮金次郎の像もあるよ。
展示室で探してみよう！

みどころ■城山中学校美術部による黒板アート

昨年度からはじまった城山中学校美術部による黒板アートの第２弾が完成しました。今回は「はじまり」がテーマとなっています。窓からみえる桜、風によって室内へと入った花びらが、新年度、新生活へのはじまりを告げる作品です。ぜひ、ご覧ください。

制作風景

ただいま“伝酒井の太鼓”出陣中！

旧見付学校１階で展示している市指定文化財の伝酒井の太鼓（※）が、5 月 29 日まで致道（ちどう）博物館（山形県）で展示されます。

酒井家庄内入部 400 年記念特別展【第 1 部】
徳川四天王筆頭　酒井忠次
2022 年 4 月 14 日（木）～5 月 29 日（日）
詳しくは致道博物館ホームページをご確認ください。

伝酒井の太鼓（市指定文化財）

（※）元亀 3 年（1572）武田信玄が徳川家康と三方原で戦いました。この戦いで徳川軍は敗走し、浜松城まで帰りましたが、武田軍はこれに追走し城門まで迫ります。この時浜松城では、かがり火をたき、酒井忠次が太鼓を打ち鳴らしていました。これによって徳川軍は士気があがり、武田軍は徳川軍の策略かと案じ退却しました。この時の太鼓が「酒井の太鼓」と伝わっています。後に、見付学校に寄贈され、児童の登下校の合図などとして、打ち鳴らされていました。

源平伝説地を訪ねて　その2

磐田市内に、源平伝説地があるのをご存じでしょうか。このシリーズでは、市内に残る「伝説地」と「石塔（供養塔）」から、伝説が発生した要因となるものを探ります。第２回は、「千手（せんじゅ）の前（※）と平清盛の五男・重衡（しげひら）」についてです。

（※）千手は千寿と表記されることもあります。

『吾妻鏡（あづまかがみ）』にみる「千手の前」

千手の前は鎌倉幕府の公式記録である『吾妻鏡』に登場します。

文治４年（1188）４月 22 日の記述には、御台所（みだいどころ）（北条政子）に仕える千手の前という女性がいることが記されています。また、文治４年（1188）４月 25 日の記述からは、明け方に千手の前が 24 歳で亡くなったこと。千手の前は穏やかな性格で、亡くなったことを人々は悲しんだこと。その死因は、重衡の死後に彼を恋い慕い、哀れみ苦しんだからではないかといわれていたことが書かれています。

『遠江古蹟図絵』より
傾城塚
国立国会図書館デジタルアーカイブより転載

「千手の前」と「平重衡」の説話

次に説話をみてみましょう。鎌倉時代前期には成立していたとされる『平家物語』に記された内容のあらすじは以下のとおりです。

寿永３年（1184）、一ノ谷の合戦で源氏に敗れた平重衡は、捕らえられ鎌倉に送られた。到着後、入浴するよう言われた重衡は、千手の前に背中を流すなど世話をされる。またその夕方、千手の前は重衡に酌をし、朗詠するなど交流した。その翌年、重衡は東大寺をはじめ奈良の町を焼いたという罪から、東大寺・興福寺の強い要求により斬首される。重衡の斬首後、千手は彼の菩提（ぼだい）を弔うために信濃国・善光寺で尼となり、仏に仕えた。

その後の話として、江戸時代の『古老物語』、『遠江古蹟図絵（こせき）』などでは、「千手は重衡の死を聞き、尼となり遠江に住んだ。住んだところを『白拍子村（しらびょうし）』、亡くなった場所を『野箱村』、墓を『傾城塚（けいせい）』というようになった。」とあります。

平安時代末の「白拍子村」「野箱村」は？

この頃の天竜川は池田荘（池田）の東を流れており、下流は草崎の東側に当たることから、この当時は白拍子村、野箱村はまだありませんでした。天竜川が池田の西側に流れを替えた後（※）に村ができ、前項のその後の話が作られたことがわかります。

（※）永享４年（1432）時点で池田の東側、天文 13 年（1544）頃に西側に移動。

天竜川の位置 ― 東海道
（『図説浜松の歴史』より）

「千手の前」と「千手観音菩薩立像」

当時の草崎には、蓮華寺（※）がありました。ここには、本尊として、木造千手観音菩薩立像（市指定文化財）が祀られ、住民の信仰の対象となっていました。さらに、蓮華寺には、13 世紀末作とされる花崗岩製五輪塔がありました。現在、その一番下（地輪）は手水鉢（ちょうずばち）として使用されています。

五輪塔の「地輪」

（※）現在は前野に移転

（その3へ　つづく）

動画『磐田市の文化財をまもる・いかす』を制作しました！

文化財課が制作した「磐田市文化財保存活用地域計画」(※) が、令和 3 年 7 月に県内で初めて文化庁により認定を受けました。今後、この計画を進めるうえで地域の人材である、文化財保存活用団体の方や観光協会の方に話を伺い、15 分の動画と 4 分の短編動画を作りました。

動画のサムネイル

動画は、磐田市公式 YouTube チャンネル『IwataTV』でご視聴できます。地域の文化財を活用し盛り上げていこうとするメンバーの想いをぜひご覧ください。

(※)平成 31 年度に施行された改正文化財保護法に基づいて、市が目指す目標や中長期的な取り組みを明らかにする、文化財保存・活用に関するアクションプラン。

15 分版はコチラ（YouTube にリンク）

4 分版はコチラ（YouTube にリンク）

「磐田市保存活用地域計画」はコチラ（市HPにリンク）

職員リレーコラム　古墳時代も磐田はモノづくりの町

森本　司

磐田市ではこれまでに約 960 基の古墳が見つかっており、古墳を調査すると、鉄製の武器や馬具、玉類、埴輪（はにわ）、須恵器（すえき）などが出土します。古墳時代の埴輪や須恵器は、専門の工人が窯（かま）で焼いて作っていました。市内には、埴輪を焼いていた京見塚古墳群（国府台（こうのだい））、埴輪と須恵器を焼いていた安久路（あくろ）古窯（西貝塚）が見つかっていることをご存知ですか。

そのうちの安久路古窯では、昭和 60 年の調査で 1 基の窯跡とそこで焼かれた埴輪と須恵器が見つかっています。場所は、現在の安久路公園の北側になります。製造業の多い東部工業団地の近くは、古墳時代にもモノづくりの場所だったようです。

この窯で作られた埴輪や須恵器は、現在整理を進めている、遠江で初期の横穴式石室を持つ甑塚（こしきづか）古墳（岩井）から見つかったものと似ていますが、この 2 つの関係は検討が必要なところです。

市内の窯で作られたものがどこに運ばれたか、まだ分かっていないことが多く、市内や市外にある近隣の古墳か、はたまた県外か、気になるところです。

安久路古窯から見つかった須恵器

編集後記　現在、伝酒井の太鼓が山形県に出張しています。学生時代に旅した山形。編集しながら色々な思い出が。気兼ねなく旅ができる日がきたら、また訪れたいです。

発行：磐田市教育委員会事務局教育部
文化財課(磐田市埋蔵文化財センター)
住所：〒438-0086 磐田市見付 3678-1
電話：0538-32-9699
◆WEB 版は市 HP から閲覧できます。磐田 文化財だより 検索